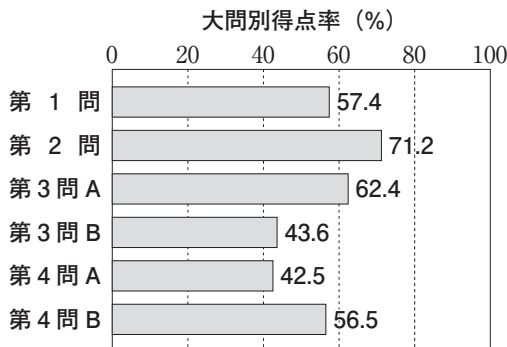
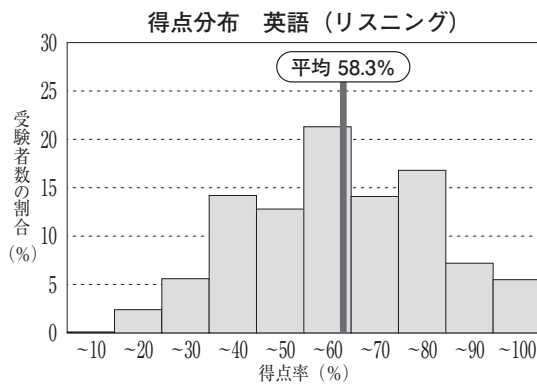


英語 (リスニング)

多様な英文と設問形式への対応力を高めよう。

I. 全体講評

今回の受験学年(高3生・高卒生)の平均点は29.2点、得点率にして58.3%という結果だった。最終目標はさらに上に置くべきであるが、この結果は現段階での力を測る尺度となる。パートによって出来不出来があるが、そのすべてにおいて今後の底上げを期待したい。大問別の得点率を見ると、最高が第2問の71.2%、最低が第4問Aの42.5%であり、他の大問はいずれも40~60%台の範囲内だった。第4問については、ABともに本文の長さがハードルになっているが、それだけにここで好成績を取れば大きな差をつけることにもなる。リスニングでの高得点を目指し、耳のトレーニングを怠りなく続けてほしい。



II. 大問別分析

第1問 対話の聞き取り(数値・語句・イラスト選択) 課題を残したイラスト問題

第1問の受験学年の得点率は57.4%と平均的な結果であった。ただし、小問別正答率を見ると、30%台から70%台までと、ややばらつきが見られた。比較的正答率が低かった小問は、イラストを用いた問1と問6だった。正答率が最も低かった問1の場合、物の形状と位置関係の聞き取りがポイントをなすという、この種の設問の典型例である。ここでは、half-moon, rectangleという形状表現にjust belowという位置関係を表す語句を押さえればよいが、正解の①よりも③を選んだ人が多かった。just belowをきちんとつかめていなかったことになる。視覚情報と言語情報を一致させるのは、文としてゆっくり読めばともかく、音声聞いて即座に判断するのは容易ではない。過去のセンター試験で類似問題を数多くこなして、自分の型を完成させておくことをすすめる。

第2問 対話の聞き取り(応答文選択)

申し分なく良くできていた!

今回の第2問の受験学年の得点率は71.2%と非常に良くできていた。小問別の正答率を見ても、50%台が1問あるほかは、どれも60~90%台の範囲内にあり、高いレベルで安定していた。これだけの結果を残していれば、特に個別の問題点を取り上げる必要はないだろう。ただ、一般論として、第2問に関して強調しておきたいのは、短いながらも文脈をしっかりとつかむことの大切さである。話題の中心が何かはもちろん、対話をどのような形で引き継ぐのかに神経を集中しよう。特に、文章が平叙文で終わっている場合は、多様な応答のしかたが可能となる。対話の流れ全体から判断して、最も自然な応答を見つけなければならない。

第3問 A 対話の聞き取り(質問に対する答えの選択)

本番ではさらに上を目指そう!

今回の第3問Aの受験学年の得点率は62.4%で、比較的良くできていた。小問別の正答率も、ほぼすべて60%台で、バランスよく得点できていた。今回については特にマイナス面は見当たらない。本番でもこの調子を維持し、確実に得点を重ねてほしい。第3問Aは短い英文だからといって必ずしも容易なわけではない。短い対話に基づく内容一致問題だが、トリックとして本文と誤答の選択肢に共通の語句を使う場合も多い。やはり対話全体の流れをつかむことが肝心である。また、特に親しい人物同士の対話では、情報を明確に伝える説明的な文とは異なり、多様な感情表現や、ユーモア、誇張、皮肉などの要素が加わることも珍しくない。言葉の裏の意図や心理を読み取るようにしたい。

第3問 B 長めの対話の聞き取り

表現の言い換えに十分注意しよう!

第3問Bの受験学年の得点率は43.6%で、全体平均よりもかなり低かった。小問別正答率によると、30%台に終わった箇所が2つあり、これが大きく響いてしまった。そのうちの1つは問18であるが、ここでは「(後から来る人たちが)追いつく」という本文の内容を「合流する」という選択肢に結びつける必要がある。catch up → join というつながりである。もう1つは問19で、こちらは「(道路の)交通量が非常に多い」という本文に対して、「車が多すぎる」という選択肢であり、very busy → too many cars という関係である。こうしたことからわかるように、内容一致問題の常として、正解の選択肢は本文の表現を言い換えた場合が多いことを忘れてはならない。

第4問 A 長めの文章の聞き取り

とらえにくかったストーリー展開!

今回の第4問Aの受験学年の得点率は42.5%で、第3問Bと並んで低かった。小問別の正答率を見ても、3B同様に3問中2問が不振で、大きく足を引っ張ったことがわかる。ある失踪者とその関係者を巡る実話が素材であるが、やや変わったストーリーで、多くの人はその展開についていくのに苦労したのかもしれない。単純明快な問20はよかったが、やや込み入った内容に関する問21と問22は

正解者の数がずっと減っていた。間違えた人はどの辺に原因があるのか各自でチェックしてほしい。いずれにしても、素材文の種類によって、それぞれの難しさがあるので、日頃から多様な英文に触れておくことが大切である。

第4問 B 長めの会話の聞き取り

最後まで集中して聞き取ろう!

今回の第4問Bの受験学年の得点率は56.5%で、この大問としては無難に収まっていた。小問別の正答率を見ると、40%台、50%台、60%台がそれぞれ1問ずつで、特に大崩れした箇所はない。間違えた箇所については、読み上げ文を見直して確認してほしい。リスニング問題は筆記問題とは比較にならないほど高い集中力を要する。その最後に待っているのが、長い会話文を素材とする内容一致問題のこの第4問Bである。毎回多くの人が苦戦する大問であるが、これに対処するには日々のトレーニングで集中力を持続させる鍛錬をするほかはない。少しずつでよいから徐々に長い英文を集中して聞き取る訓練をしていこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

センター試験本番までの時間を有効に使って、1問でも多く正解を得られるように対策を行おう。今回の模試はこれまで継続してきたセンター試験の内容に沿っている。2019年度センター試験でも、これに近い形式・内容の問題が出题されると予想される。当然ながら、その傾向に沿った問題に対する習熟度を高めておく必要がある。比較的リスニングを得意とする人でも、苦手なタイプの設問があれば、そうした問題を何度も見直しておくようにしたい。

リスニングが苦手な人は、最後まで音声そのものに慣れる練習を続けるべきである。1日に5分でも10分でもよいから、毎日英語を聞いて耳を慣らしてもらいたい。そして、耳の感覚をそのまま研ぎ澄ました状態で本番に臨んでもらいたい。最も大切なのは、「集中して聞く」ということだ。他の勉強をしながらBGM代わりに英語を流しても、全く効果はない。単語や熟語の暗記と同様に、最後の一日まで努力を続けることによって、少しでも力をアップさせてセンター試験当日を迎えるようにしよう。